

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（A）】

実施内容報告書

受託団体名：株式会社 インターカルト日本語学校

1. 事業名称

・生活者としての外国人と共に支え合うための日本語教育プロジェクトⅢ

2. 事業の目的

今年度も「生活場面とのつながり」「社会参加」「課題解決」「対話による相互理解と協働」「外国人当事者の参画」「自己表現」をキーワードとする。その達成のために、外国人（学習者としての外国人と、すでに日本社会で生きる外国人）、日本人（日本語指導者と、近隣に住む日本人）、それらすべてが参画する形で成立する「日本語教室」の開設。標準的カリキュラム案の普及をめざし、地域において中心的担い手を育成する学びの場の提供「人材の養成・育成」、生活者としての外国人のニーズに「学習教材」プログラムを作成していく。企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価、指導力評価を参考にし、台東区の地域性を理解し、この地域に合った事業を展開していく。

3. 事業内容の概要

台東区の交流促進課と日本語教室についての情報交換を行う。その際に「標準的カリキュラム案」の内容を示しながら、国が地域で求めている日本語教室のありかたなど内容を理解してもらう。当校が行っている日本語教室の様子を示し、外国人住民にボランティア教室の案内をするときに、当校で行っておる教室の案内も合わせてお願いをする。外国人住民に少しでも選択肢を増やすようにする。「人材の養成・育成」の当校企画のボランティアのための講座に台東区のボランティアの方に多く参加してもらい、レベルの底上げを図る。このようなことから、引き続き台東区が日本語教室を行う上で、当校と協力しながら運営する体制を作っていく。学習者には日本語教室を通して、日本語だけではなく日本の文化、習慣を理解してもらう。近隣の人たちを招いて、学習者の国の文化や習慣の紹介など近隣の人たちと定期的に接点も持つ機会を主催者側が企画する。当校のある地域は商店街や飲食店が多くあり、商店街の会長、副会長とのつながりを生かし、近隣への告知の協力をお願いする。

4. 事業の実施体制について

コーディネーターの役割として、事業全般が円滑に進むために、各事業の計画から、内容の決定、円滑に事業が進んでいるかなど、担当の講師と密に連絡を取りながら、事業に参加しながら常に状況を把握した。反省すべき点は、改善をした。日本語教室運営にあたっては、各回ごとに反省会を持ち、学習者の状況を把握、テーマの内容の反省など行いながら、次回につなげた。人材の育成・研修においては、今、地域の日本語教育の現場で、求められている内容、必要な内容を取り入れた講座を企画し、30名近いボランティアの方々が参加した。

日本語の指導者の授業運営の役割として、授業内容の計画から携わり、授業内容を決定し、担当者が毎回の授業内容の流れを作成し、授業前に他の指導者に周知した。学習者の担当をあらかじめ決めて、責任を

持って指導にあった。また、学習者のポートフォリオの作成し、学習者にフィードバックを行った。授業内容に即した教材を作成し、学習者の授業に役立てた。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	西原鈴子	国際交流基金日本語国際センター所長
2	神吉宇一	長崎外国語大学外国語学部特別任用講師
3	秋本邦雄	佐竹商店街振興組合理事長
4	砂原利彦	台東区佐竹・竹町南町会部長
5	加藤早苗	インターカルト日本語学校代表・校長
6	田栗春菜	インターカルト日本語学校専任講師
7	谷口真理	インターカルト日本語教員養成研究所課長
8		
9		
10		

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 6 月 19 日(金) 14:00～16:00	2 時間	インターカルト 日本語学校	神吉宇一 加藤早苗 田栗春菜 谷口真理	1.事業目的の見直し 2.行政との連携に向けた具体策の検討
2	平成 27 年 11 月 5 日(木) 14:00～16:00	2 時間	インターカルト 日本語学校	西原鈴子 加藤早苗 田栗春菜 谷口真理	1.取り組みの進捗状況 2.行政のとのつながる糸口 3.インターカルトの今後の方針
3	平成 28 年 3 月 14 日(月) 10:00～12:00	2 時間	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 田栗春菜 谷口真理	1.今年度の反省点(全ての取り組み) 2.次年度に向けて、採択の条件等の改善案

6. 日本語教育の実施

(1) 活動名称

生活上の日本語を学ぶ教室(台東区)

(2) 目的・目標

- ・地域との関係が希薄な外国人や、関係がありながらも社会に溶け込めない外国人が、地域社会と密接につながりを持ち、その中で地域の一員として生活していくために必要な日本語及び文化について学ぶ場を作る。それにより、学習者が地域社会に参加し、生活を円滑に行えるようにする。
- ・教室の指導者及び補助者においても、対象外国人の目標達成に向けての支援をすることによって地域の外国人とともに支えあうという意識を育むなど、副次的な成果を得られるものとする。

(3) 対象者

台東区、または近隣に住む外国人(日本語学習歴は問わない)

(4) 開催時間数(回数)

講座 ・ 88 時間 (2 時間 × 全 39 回 課外活動 2 回 3 時間 1 回 4 時間)

(5) 使用した教材・リソース

- ・標準的なカリキュラム案
- ・オリジナル教科書『台東区に住むお母さんのための日本語教材』
- ・市販教材
(『いっぽにほんごさんぽ』、『にほんごこれだけ!』『まるごと』『漢字たまご』など)
- ・『外国人のための生活便利帳』(台東区)
- ・近隣スーパーの広告等

(6) 参加者の総数 32 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 20 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
1	1					1			12

※その他の国籍と人数: インド(16 人)、フランス(1 人)

(7) 日本語教育の実施内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 4 月 16 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	自己紹介①	自分の家族を紹介し、家族 の学校や仕事について話 す。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
2	平成 27 年 4 月 23 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	自己紹介②	自分や家族の趣味・好きな ことについて話す。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
3	平成 27 年 4 月 30 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	買い物①	自分の住んでいる地域のス ーパーの情報を交換し、目 的に合わせてどの店舗へ 行っているか話し合う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
4	平成 27 年 5 月 7 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	買い物②	スーパーで店員に質問する 際の表現を学習し、商品の 場所や原材料について尋 ねるロールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 伊勢初子 (保育)

5	平成 27 年 5 月 14 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	買い物③	衣料品に関する表現を学習 し、服飾店で店員に試着を 申し出たり、色・サイズ違い のものを頼むロールプレイ を行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
6	平成 27 年 5 月 21 日(木) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	★課外活動 ①	課外活動として、近くのスー パーへ行き、買い物をす る。実際に店員に質問して みる。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
7	平成 27 年 5 月 28 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	病院①	初診受付での指示表現を 学習する。実際に問診表を 書いてみる。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 長崎順子
8	平成 27 年 6 月 4 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	病院②	病気表現を学習する。医者 の診察を受けるロールプレ イを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
9	平成 27 年 6 月 11 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	薬①	薬の「用法、用量」に関する 表現を学習する。処方箋薬 局でのロールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
10	平成 27 年 6 月 18 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	薬②	ドラッグストアで、症状を説 明し薬を求めるロールプレ イを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
11	平成 27 年 6 月 25 日(木) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	★課外活動 ②	課外活動として、近くのドラ ッグストアへ行き、買い物を する。実際に店員に質問して みる。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
12	平成 27 年 7 月 2 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	移動①	自分がよく使う電車の路線 について話し合う。駅で駅 員に目的地への行き方を 尋ねるロールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子

13	平成 27 年 7 月 9 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	14 人	移動②	道案内の表現を学習し、学 校から自分の家までの行き 方を説明し合う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
14	平成 27 年 7 月 16 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	移動③	道路標識を見て、その意味 を確認する。漢字が読めな い、意味が読み取れない標 識や看板の意味を尋ねるロ ールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
15	平成 27 年 7 月 23 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	サービス①	荷物を送る際の方法や料 金、表現を確認し、郵便局 で荷物を送るロールプレイ を行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
16	平成 27 年 7 月 30 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	サービス②	不在配達通知が入っていた 場合の対応方法を確認し、 再配達希望の電話をするロ ールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 服部佐知恵 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
17	平成 27 年 9 月 3 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	サービス③	よく使用するコンビニや、コ ンビニのサービスについて 話し合い、店員とやり取りす るロールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
18	平成 27 年 9 月 10 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	サービス④	美容院の情報を共有し、美 容院で希望を伝えるロール プレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
19	平成 27 年 9 月 17 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	料理①	日本と自国の料理を比較し て話す。自国の料理を紹介 し合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
20	平成 27 年 9 月 24 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	料理②	料理の手順に関する表現を 学習し、自国の料理の作り 方を説明する。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
21	平成 27 年 10 月 1 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	料理③	よく利用するレストランにつ いて話し合う。実際に店員 に注文する際のロールプレ イを行う。	有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子

							松島昭子	
22	平成 27 年 10 月 8 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	電話①	電話での表現を学習する。 電話で友人を自宅に誘うロ ールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 長崎順子
23	平成 27 年 10 月 15 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	電話②	電話でレストランや美容院 の予約をするロールプレイ を行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
24	平成 27 年 10 月 22 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	防災①	地震発生時に取るべき行 動を確認し、緊急時の指示 表現を学習する。	有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
25	平成 27 年 10 月 29 日(木) 10:00-14:00	4 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	★課外活動 ③	課外活動として本所防災館 へ行き、ビデオ学習や地震 体験をする。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
26	平成 27 年 11 月 5 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	防災②	防災袋に準備しておくべき 物を確認し、現在どれくらい 準備ができているか話し合 う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
27	平成 27 年 11 月 12 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	防災③	地図を用いて自分の家や 家族の勤務先、通学先の 位置を確認し、地震発生時 の避難場所について話す。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 長崎順子
28	平成 27 年 11 月 19 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	防災④	緊急時の通報の仕方を確 認し、電話をかけるロール プレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美 長崎順子
29	平成 27 年 11 月 26 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	電話③	電話で子どもの学校や幼稚 園に欠席・遅刻の連絡をす るロールプレイを行う。学校 (幼稚園)の先生と連絡を取 る際の注意点について話し 合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	伊勢初子 (保育) 千葉洋美
30	平成 27 年 12 月 3 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	地域社会①	習い事の情報・求人情報等 地域の情報を読み取るため の語彙を学習する。実際に ポスターを見て、情報を読 み取りながら質問する。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育)

31	平成 27 年 12 月 10 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	地域社会②	自分の住んでいる地域のゴミ出しのルールを確認し、実際に分別をしてみる。粗大ゴミの出し方を確認する。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
32	平成 27 年 12 月 17 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	地域社会③	友人宅を訪ねる際のマナーについて話し、日本人の家を訪問するロールプレイを行う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
33	平成 27 年 1 月 7 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	日本の行事 ①	書初めを行い、新年の抱負を発表する。正月をどのように過ごしたかについて話し合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
34	平成 27 年 1 月 14 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	日本の行事 ②	成人式について話す。日本の成人式について学び、自国の成人の儀について紹介し合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
35	平成 27 年 1 月 21 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	日本の行事 ③	日本の年中行事について学ぶ。自分が体験したことあるものについて話す。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
36	平成 27 年 1 月 28 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	日本の行事 ④	節分について話す。節分の日の過ごし方を学び、一緒に豆まきを体験する。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
37	平成 27 年 2 月 4 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	10 人	日本の行事 ⑤	自国の年中行事を紹介する。カレンダーを用いて一覧を作成し、互いに紹介し合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
38	平成 27 年 2 月 18 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	自国につい て話す①	自分の国や出身地域について紹介する。お互いに聞き合い、最終的に一まとまりの紹介文を完成させる。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
39	平成 27 年 2 月 25 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	12 人	自国につい て話す②	自分の国での、行事の過ごし方について話す。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育)

40	平成 27 年 3 月 3 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	11 人	自分のこと を話す①	現在の自分や家族の習慣 について話す。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育)
41	平成 27 年 3 月 10 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	自分のこと を話す②	日本へ来る前、来てから現 在までの経歴を話す。生ま れてから現在に至るまでの ライフストーリーのシートを 完成させ、お互いに話し合 う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子
42	平成 27 年 3 月 17 日(木) 10:00-12:00	2 時間	インターカ ルト日本語 学校	13 人	自分のこと を話す③	これからの自分や家族の予 定、希望を話す。今後日本 でしてみたいことについて 話し合う。	田栗春菜 有田玲子 矢口奈緒子 上田佳子 税所久美江 松島昭子	千葉洋美 (保育) 長崎順子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 5 回 2016 年 5 月 14 日】

毎年恒例となっている、スーパーでの課外活動を行った。この活動の前2週に渡って、スーパーでの買い物の際の会話表現・語彙を学習していたため、その実践の場として実際に店員の方に質問したり、食品表示の疑問点を解決したりした。学習者にベジタリアンが多いこともあり、食品表示に関しては質問が多く、指導者及び補助者も改めて食品について考える機会となった。



取組事例②

【第 25 回 2016 年 10 月 29 日】

一連の防災に関する活動の一つとして、本所防災館で課外学習を行った。この前週に「緊急時にとるべき行動」に関して学習した際、大震災未経験の学習者にとっては実感が薄いようだったが、防災館で実際に揺れを体感し、映像を見たことで備えの大切さを感じた人が多かった。災害時のインターネットでの情報入手法を質問する人もいた。この後2週に渡って「非常持ち出し袋」「避難場所」について学んだが、非常に熱心に取り組む人が多く、課外活動の成果が出たように思う。



6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

地域日本語支援者のためのブラッシュアップ講座 ～「教える」から「対話」へ～

(2) 目的・目標

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について理解し、使えること。
- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を普及すること。
- ・カリキュラム案を取り入れている現場の声を聞いて、所屬地域でどう活用するかを学ぶ。
- ・活動に必要な教材作成のポイントを学ぶ。
- ・学習者を飽きさせない支援の仕方を学ぶ。
- ・対話型活動のやり方、工夫を学ぶ。
- ・地域外国人を主役に、地域で参画できる企画を考え、支援者や地域住民とともに学べる場を設ける。

(3) 対象者

地域で外国人支援を行っているボランティア、外国人支援を行っている大学生、外国人支援に興味のある方

(4) 開催時間数(回数)

講座 ・ 30 時間 (3 時間 × 全 10 回)

セミナー 1.5 時間 (1.5 時間 × 全 1 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・標準的なカリキュラム案

(6) 受講者の総数 32 人 ※延べ人数ではなく、受講した人数を記載

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									32

※その他の国籍と人数:

(7) 養成・研修の具体的内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	研修概要	講師名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 26 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	21 人	「世界の言語学 習の潮流から 標準的カリキュ ラム案ができる まで」	・世界の言語学習の潮流から標準的カリキュラム案ができるまで ・標準的カリキュラム案の概	西原鈴子	
2	平成 27 年 10 月 3 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	21 人	「文化庁 5 点 セットと、地域 における日本 語支援者の役 割～自己チェッ ク!」	・文化庁 5 点セットの紹介と使い方 ・5 点セットのキーワード「社会の一員」「エンパワメント」を実現するための企画と発表	加藤早苗	
3	平成 27 年 10 月 17 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	22 人	「地域におけ る日本語支援 者の役割」 ～「教えること」 以外にいっぱい あるんだけどな あ… ～	・在住外国人の動向と政策 ・地域日本語教室の全体的な傾向 ・地域の日本語支援について	神吉宇一	
4	平成 27 年 10 月 31 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	21 人	「こんな時、あ なたの日本語 教室ならどうし ますか？」 ～話して、聞いて、考えて、日 本語教室の問題を一緒に ～	所属している日本語教室、ボランティアの問題の共有とその解決策・発表	大崎紀子	田越麻里 賀来昌代 油野英子 小宮山まり子
5	平成 27 年 11 月 7 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	18 人	「対話って何 だろう？」 ～ニーズをつか み、持続する学 習を支えるため の対話トレーニ ング～	・「対話」がもたらすもの、 「対話」によってもたらされるもの。 ・「対話」に必要なことは何かを考えてみる。	深田みのり	

6	平成 27 年 11 月 14 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	19 人	「ニーズに応 える対話型活 動のデザインと 実践」 ～実際に活動 を考え、体験 し、その効果と 意義を考える～	・学習ニーズを引き出し方 ・コースデザイン ・対話型活動をデザインす る。	深田みの り	
7	平成 27 年 11 月 28 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	18 人	わかりやすい 日本語ってどん なもの？ ～日本語学習 者にどんな日 本語で話しかけ るか～	・分かりやすい説明とは。 言葉の「意味」と「使い方」 をどう伝えるか。 ・学習者の質問に答えるポ イントとは。 ・具体例を考えてみる。	宮島京子	
8	平成 27 年 12 月 5 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	19 人	「わかりやす い説明とは？」 ～どんな 意味？どんな 時に使う？学習 者の質問に上 手に答える～	・どんな日本語が分かりや すいか。 ・わかりやすい日本語を話 すためには。 ・言い換えの練習	宮島京子	
9	平成 27 年 12 月 12 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	18 人	「初めての語 学学習」 ～ゼロから学ぶ という体験をと おして感じるこ と～	・初めての語学学習体験 (ヒンディー語を学ぶ) ・日本を学ぶ人のために インストラクターとしての役 割(ニーズ、ゴール、活動、 評価)	齋藤美幸	
10	平成 27 年 12 月 19 日(土) 10:00-13:00	3 時間	インターカ ルト日本語 学校	21 人	「ボランティア 教室の可能性」 ～留学生との 語らいをともし て見えてくるこ と～	・「話す力」「話題」「話す 技術」の確認 ・学生と実習 ①学生と話しながら、学生 の言いたいことを引き出す ②1～2分のスピーチに、 学生と共同でまとめる ③できるだけ暗記させる 発音の練習もする	齋藤美幸	

セ ミ ナ ー	平成 27 年 11 月 20 日(金) 11:00-12:30	1 時間 30 分	インターカ ルト日本語 学校	20 人	ヨガ体験セミ ナー ～心と体をリフ レッシュする呼 吸法～	ヨガを通して地域に住む外 国人と日本人がつながる	今井新子	Nikhil Khandelwal
------------------	--	--------------	----------------------	---------	---	-----------------------------	------	----------------------

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 3 回 27 年 10 月 17 日】

神吉宇一先生の活動から。ANA DO(あなたならどうする)
ケーススタディ。グループで話し合う。テーマに対して自分の考えが A か B を決め、
何故なのか、メンバーに理解できるように説明をする。気づき。

例、あなたはボランティア。ある日、小学校の子どもがいる韓国人の朴さんから相談を受けた。先生に
お礼をしたいので何をプレゼントしたらいいか。あなたならどうしますか。Aはする。Bはしない。



取組事例②

【第 10 回 27 年 12 月 19 日】

齋藤美幸先生の活動から。

テーマ:「趣味について」学習者が話したいことを引き出して、スピーチをさせる。

ポイント:学習者が話したいことを支援者はちゃんと受け取る。(待つ姿勢)

学習者が理解できる日本語で、支援者は返す。(やさしい日本語)

学習者の強化したいところにスポットをあてる(発音、助詞が抜けるなど)



(9) 目標の達成状況・成果

人材研修においては、毎回アンケートを実施した。毎回の評価が概ね満足と答えた方が多かった。講座の内容が、実践的な内容だったので、ヒントやアイデアを所属の教室で活かせるとの感想が多かった。皆勤の参加者が多く出た。

【第1回】

- ・世界における日本語の位置づけがわかった。日本語教育は単なる日本語学習ではない。日本語を学びに来ている在留外国人の置かれている状況を理解できた。この状況の中カリキュラム案のできたことも理解できた。
- ・標準的カリキュラム案を初めて知って、勉強になった。

【第2回】

- ・文化庁5点セットの内容の説明を聞き、かなりイメージがつかめた。どんな内容かちゃんと見てみようと思う。
- ・5点セットに関しての活動例が参考になりました。自分の活動で生かしていきます。

【第3回】

- ・教える能力より学ぶことを支える能力のお話が印象に残りました。
- ・先生の示してくれた事例が今後の活動に役に立ちそうです。
- ・地域の日本語教育について新しい視点を獲得することができました。

【第4回】

- ・地域の現場で苦労されてる方々のお話が聞ける場で良かったと思います。
- ・ボランティア同士、いろいろな悩み、情報を意見交換できた。

【第5回】

- ・相手の話を聞く時顔つき、確認、共感の仕方、理由を聞く、話すときの参考のともになりました。
- ・自分のコミュニケーションの傾向を振り返ることの大切さを再度確認できたと思います。

【第6回】

- ・良い質問は対話を深める効果がある。と改めて思いました。特につながる、つなげる質問の重要性を痛感しました。
- ・ロールプレーによって対話を広げ、楽しく過ごす場所を作ることが大切だと気付きました。

【第7回】

- ・講師の方の話し口調の柔らかさが印象に残りました。話し方のいい勉強になりました。
- ・やさしく言い換えてみる。例をたくさん出すことの大切さを学びました。

【第8回】

- ・不要な部分を捨てて、要点だけをわかりやすい言葉で伝えるという点が印象に残った。
- ・学校だよりなど学校の配布物の翻訳をしているので、文章を簡単に理解しやすいようにしなければ

ならないので、良いトレーニングになりました。

【第 9 回】

- ・ヒンディー語を使っの直説法の講義は、外国人の気持ちになれたこといい経験でした。
3 つの単語を覚えるのも大変でした。
- ・スモールステップを踏みながら授業を進める大切さを体験しました。状況にもよりますが
ステップを踏めば媒介語がなくても伝えられることが分かりました。

【第 10 回】

- ・外国人学生とペアでスピーチを考えて、自分の違った視点から学習者の問題点を考えることが
できたことが良かった。
- ・共に「語る」体験を今後のボランティアの教室でいかしていきたいと思います。
また、メンバーに伝えたいと思います。

(10) 今後の改善点について

- ・カリキュラム案をどのように使用して活動しているか、具体的な例を示すことが必要であった。
大枠は理解している様子だったが、所属のグループでどのように使用するのかイメージできない
様子であった。
- ・台東区のボランティアグループの参加が少なかったので、アプローチの仕方などの改善が必要に
思った。
- ・途中で来なくなってしまう方もいたので、毎回の講座の前にお知らせをするなど続けて来させる
工夫が必要に思った。
- ・外国人主体のセミナーに関しては、候補者の都合等で、今年度は難しかったので、来年度は、
都合も含めて時間に余裕をもって、計画する必要がある。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

「台東区に住むお母さんのための日本語学習教材」

(2) 対象

台東区在住の、来日後間もない日本語学習者。
主に子どもを持つ「お母さん」を対象としているが、それ以外にも使用可能。

(3) 目的・目標

前年度(平成 26 年度)に作成した動画教材を実際に教室活動で使用した成果を反映させ、教材の修正・改良を行う。実際に使用した結果を反映させることで、より日本語学習の場におけるニーズに即した教材にすることを目標とする。

(4) 構成 (総ページ数: 12 ページ + 動画 5 本)

- ・生活上の行為における、各場面を想定した動画
- ・動画のスク립ト

(5)教材の具体的な活用方法

日本語教室の活動の冒頭に、その日扱うテーマ（場面）の会話例として、指導者・補助者がスキットを見せる。本教材は、そのスキットの例として作成したものである。スキットによって学習者がどのような場面であるかを理解した後、どのような表現や語彙が使われているかを確認するためスクリプトを使用することを想定している。

(6)具体的な活用例

- ①「日本人の家を訪問する」という学習を行う際、本教材を参考にして活動の冒頭でスキットを見せる。
（補助者が複数いない場合は、動画をそのまま学習者に見せても良い）
- ②スキット(動画)を見て感じたことや疑問点、自分の経験を話す。
- ③スクリプトを使用し、表現や語彙を学習する。
- ④実際に、日本人の家を訪問するロールプレイをする。

(7)成果物のリンク先



地域社会④

レベル2

A: はい、はい。
B: はい。
B: はい。
A: あ、日本人、ちょっと待ってください。
a. B san, chotto matte kudasai.

A: こんにちは、いらっしゃい。
konnichiwa, irasshai.
B: こんにちは。最近お菓子を買った。これ、クッキーです。どうぞ。
konnichiwa, ojamashimasa. kore, kuki desu. dozo.
A: ありがとうございます。いっしょに食べましょう。どうぞ。
arigatou gozaimasu. issho ni tabemashoo. dozo.
B: ありがとうございます。
arigatou gozaimasu.

A: じゃ、どうぞ。
kore, dozo.
B: これは何ですか。
kore wa nanidesuka.
A: “かりんとう”です。日本のお菓子です。
“Karintoo” desu. nihon no okashi desu.
B: そうですね。新しいお菓子ですね。いただきます。
moumouka oishideshou. itadakimasu.
(...) 最近お菓子を買った。
totemo oishidesu.

key フレーズ

①おじやます／おじやました
②いただきます／ごちそうさまでした
③おいしい／おいしい／おいしい／おいしい／おいしい

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・今年度も「生活場面とのつながり」「社会参加」「課題解決」「対話による相互理解と協働」「外国人当事者の参画」「自己表現」をキーワードとする。その達成のために、外国人(学習者としての外国人と、すでに日本社会で生きる外国人)、日本人(日本語指導者と、近隣に住む日本人)、それらすべてが参画する形で成立する「日本語教室」の開設。標準的カリキュラム案の普及をめざし、地域において中心的担い手を育成する学びの場の提供「人材の養成・育成」、生活者としての外国人のニーズに「学習教材」プログラムを作成していく。企画にあたっては、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、ガイドブック、教材例集、能力評価、指導力評価を参考にし、台東区の地域性を理解し、この地域に合った事業を展開していく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・ 日本語教室においては、複数の学習者から「今まで自国のコミュニティがあり、日常生活において日本人と会話をする機会はほぼなかったが、教室に参加してから、買い物の際や児童館で日本人と話そうと思うようになった」という声を聞いた。今まで関係があまり持てていなかった外国人生活者が、地域と密接につながる機会を作ることを目的としているため、この点では達成できた。しかし、現状として教室の運営に近隣に住む日本人の参加がないため、教室内でも関係を築けるよう、運営スタッフの見直しが必要である。

また、今年度初めて日本語教室に参加した日本人補助者(2歳の子と一緒に教室参加)から、「学習者の相談に乗ることが目的だと思って来ていたが、参加して色々な話を共有していると、自分の子育てに関する悩みを解決できることもあり、お互いにとって非常に良い場所になっている」という声があがった。「指導者・補助者にとっての副次的な成果」という目標が達成できている。

- ・ 人材研修においては、毎回アンケートを実施した。毎回の評価が概ね満足と答えた方が多かった。講座の内容が、実践的なことが主としたので、ヒントやアイデアを所属の教室で活かせるとの感想が多かった。皆勤の方が10名であった。インターカルトの人材研修は毎年実施しているので、開催が定着してきたので、それなりの評価を得ることができた。
- ・ セミナーは、外国人を主体としたかたちで、インド人の多く住む土地柄を生かしヨガセミナーを実施。子育て中の日本人、外国人がつながることを目的とした。しかし、目的を理解してもらうことが難しく、日本語学校とヨガの関係が今一つつながらないのか、興味を示してくれるお母さんたちは多くはなかった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ・ 日本語教室の活動内容を組み立てる際、標準的なカリキュラム案で扱う「生活上の行為の事例」を基に、学習者にニーズ調査を行っている。
- ・ 本事業を過去に受託した際に作成した教材の項目立ては、「生活上の行為の事例」を基に作成しているため、その教材を使用している学習者は、教材目次を見て「どの項目を学習すれば、生活のどの場面で何ができるようになるか」がわかるようになっている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

- ・ 今年度も日本語教室、セミナーに関しては台東区保健所の保健師さんが、子育て中の外国人のお母さんの孤立を防ぐために、対象者に参加を促してくれた。居住する地域が、教室まで遠方であったり、子どもが小さかったりでなかなか参加は難しかったが、対象者はいるので、来年度は保育があることを分かりやすくアピールして、参加を促していきたい。
- ・ 毎年行っている地域向けのフォトコンテストでは、佐竹商店街の会長が取り組みに協力的で、今では佐竹商店街のイベントの一つになりつつある。
- ・ 台東区の行政(交流促進課)との連携は難しく、情報交換をする機会は設けたが、連携を図れるまでには至らなかった。
- ・ いくつかのグループのボランティアの代表者と連携を図れるようになり、人材研修の参加をメンバーの方々に促してくれるようになった。また、委託事業とは別にそのボランティアグループの勉強会に人材研修担当の講師を派遣した。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・ 日本語教室は、インドのコミュニティー、台東区の保健師さんに依頼。
- ・ 人材研修においては、勉強会の委託を受けたボランティアグループにメンバーへの周知の依頼。
チラシを国際交流協会に設置依頼。成果のあったのは、今まで勉強会などの委託を受けたボランティアグループの周知。ボランティア関係の掲示板の利用。
毎年参加されるリピーターの口コミや参加されたボランティアのメンバーの方々が所属のグループの皆さんへの報告等が発信につながっていく。
また、当校 HP、Facebook 等の紹介で事業の成果の拡大を図ることができた。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・ 台東区の行政とのつながりがいまだ希薄であり、連携を図れる体制作りができないこと。今後も台東区の行政との関係を考えながら、つながりが持てるボランティアグループを増やし、日本語支援の底上げの協力を同じ視点でしていく。
当校が、つねに日本人、外国人のつながりが持てる場所であることを、セミナーは講座を通して地域の住民に浸透させていくこと。行政とのつながりを待つより、その成果を行政に伝えていくことで、何か変わるのではないかと考える。
- ・ 日本語教室の運営は、現在は本校養成講座修了生を中心とした指導者・補助者で行っており、未だ近隣に住む方の補助者としての参加機会が作れていないのが現状である。今後は、教室の運営も地域の方を巻き込んだ形で行っていかねばならない。
- ・ 標準的なカリキュラム案の活用は、日本語教室においてニーズ調査、活動内容決定のために用いたが、学習者の能力評価及び指導力評価に関しては、未だ十分に活用できていない。学習者のポートフォリオ作成を計画したものの、実現に至らなかった。来年度は、学習者・指導者・補助者全てに評価に関する取り組みを行いたい。

(7) その他参考資料